2026 年 11 月 4 日
トヨタ輸送株式会社
NIPPON EXPRESS ホールディングス株式会社
日本貨物鉄道株式会社
名古屋臨海鉄道株式会社

東北線の長期不通を想定した BCP 訓練を実施

～ 日本海縦貫線を活用した迂回運転を初めて検証、サプライチェーンの強靭化へ ～

トヨタ輸送株式会社（本社：愛知県豊田市、代表取締役社長執行役員：松本 光一、以下「トヨタ輸送」）、NIPPON EXPRESS ホールディングス株式会社（東京都千代田区、代表取締役社長：堀切 智）のグループ会社である日本通運株式会社（東京都千代田区、代表取締役社長：竹添 進二郎、以下「日本通運」）、日本貨物鉄道株式会社（東京都港区、代表取締役社長兼社長執行役員：犬飼 新、以下「JR 貨物」）、名古屋臨海鉄道株式会社（愛知県名古屋市、代表取締役社長：白木 禎、以下「名古屋臨海鉄道」）の 4 社は、東北線が長期間不通となる事態を想定した事業継続計画（BCP）訓練の一環として、自動車関連部品を輸送する専用列車による日本海縦貫線経由の迂回運転トライアルを実施しました。

1. 背景

近年、自然災害による鉄道インフラへの影響が懸念されるなか、主要な輸送ルートが長期間利用できなくなった場合にも、代替ルートへ円滑に切り替えられる体制を平時から整えておくことが重要です。東北線が長期間不通となった場合、自動車関連部品の輸送を継続するためには、日本海縦貫線を経由するルートが実際に運行可能かを確認するとともに、列車の運行計画、発着地でのオペレーション、関係各社の連携手順などを事前に検証する必要があります。そこで 4 社は、災害発生後の対応を円滑にするための BCP 訓練として、日本海縦貫線を経由する迂回運転トライアルを初めて実施しました。机上の検討にとどまらず、専用列車を実際に運転することで、代替輸送での実効性と運用上の課題を確認しました。

（赤線が迂回訓練走行ルート）

2.　実施内容

日程：　2026 年 10 月 10 日～12 日

輸送区間・編成：

・名古屋臨海鉄道線 名古屋南貨物駅　→　東北線 盛岡貨物ターミナル駅
貨車 20 両、31ft コンテナ 40 個

・東北線 盛岡貨物ターミナル駅　→　名古屋臨海鉄道線 名古屋南貨物駅
貨車 20 両、31ft コンテナ 40 個

3.　トライアルで確認したこと

今回のトライアルでは、名古屋臨海鉄道線 名古屋南貨物駅と東北線 盛岡貨物ターミナル駅間で、往復それぞれ貨車 20 両・31ft コンテナ 40 個の輸送を実施しました。
実地検証を通じて、迂回輸送の成立条件、通常ルートと比較した所要時間、貨物の品質確認、関係各社間の連絡手順などを確認しました。その結果、日本海縦貫線を活用した迂回輸送スキームの有効性を確認するとともに、迂回輸送を開始するまでに必要な調整事項を明確にすることができました。

4.　今後について

4 社は、今回のトライアルで得られた知見を各社の BCP に反映するとともに、災害時に代替輸送へ切り替える際の手配・連絡手順を整理します。さらに、関係各社との連携を深め、必要に応じて追加の訓練・検証を実施してまいります。
災害時にも輸送を途切れさせない体制の構築に向け、日本海縦貫線をはじめとする代替ルートの活用を具体化し、サプライチェーンと物流ネットワークのレジリエンス向上に取り組んでまいります。

（名古屋南貨物駅出発時）

（盛岡貨物ターミナル駅荷役中）

（富士川橋梁にて撮影）

（上越線にて撮影）